

特別活動

中学年

新聞広告から心の健康を考える

村上浩一 熊本県熊本市立城西小学校教諭

① 課題のねらい

ここでは学習指導要領の学級活動（2）「日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関するこ^ト」を学習していくことにした。最近では、子どもたちにもストレスが加わっていて、いろいろな形（不登校・アレルギー・暴力など）で表に出てきている。そこで、「心の健康」に焦点を当て、いやしの教育を行っていくことにした。

② 学習内容

時

主な発問・指示

指導のポイント

5分

今日は、病気のことについて学習します。
病気の時、皆はどんなことをしますか。

- 時期的には、インフルエンザや風邪の流行する時期や、運動会の練習などで疲れがたまって病気になる時が想定される。本時は、「薬」ということについて考えていくことにする。

30分

「薬」とは、何ですか

最近、どんな薬を使いましたか。また、効果はありましたか。

- ここでは、国語辞典を引かせて、「薬」の意味を探らせたい（→心・体に有益なもの）。

ここに新聞広告があります。「〇〇だって、
クスリかもしれない」の〇〇に適当な言葉
を入れなさい。

- 自由拳手にして、発表したくない子は発表させないほうがいい（プライバシーに関することだから）。

（話し合いをしながら）家族とは、どんな
薬になるのですか。

- ここで、右側の山之内製薬の新聞広告（資料①）を提示する。もちろん、キーワード（家族など）を隠して印刷したものをお配布する。

料理（スポーツ・友達・旅行・オシャレ・音楽）とは、どんな薬になるのですか。

- 最初は、普通の薬の名前などが登場てくるが、次第に「運動」「早寝早起き」などの言葉が聞かれるようになるだろう。そして、それぞれどんな薬になるか、聞いていく。

皆は、自分にとっての一番の薬は、何ですか。また、それは何にきくのですか。

- ここで、これらのキーワードを一つ一つ紹介していくことになるが、これらは趣味的なもの、身近な環境などであることを告げる。それらによって、気持ちが高まり、病気や心の悩みなどを解決してくれるものであることを理解させる。

10分

- 最後に、心の悩みがホルモンバランスを崩し免疫が低下して、様々な病気になっていくことを説明する。そして、どうすればこうならないかを知らせるために、自分にとって最高の薬を文章にまとめていくようにする。もし、ない場合は、これからつづっていくように言及する。

③ 評価

- 薬には、体と心を治すという二つの側面があることが理解できたか。
- 趣味や身近な環境が薬になっていることがわかる。
- 教師の発問・指示に対して、考えることができたか。
- 自分にとっての一番の薬をまとめることができたか。
- 自分の心身のことについて、興味を持てたか。

④ 関連する他の分野・単元

- ▶ 体育（5、6年の保健分野）——「体と健康」自分の体のことを知り、また、体のしくみを知り、健^康な生活を送っていく。

●資料

資料 1 熊本日日新聞
1998. 9. 20 付朝刊



新聞広告もよく見ていけば
即「教材」となっていく。

●山之内健康電話相談室 03-3244-6595(月～金曜日 9時30分～16時／祝日・会社休日除く) Homepage:<http://www.yamanouchi.com>

・「キーワードをかくして」